

狭い門から入りなさい

榎 本 栄 次

奨励者紹介〔えのもと・えいじ〕

関西セミナーハウス活動センター所長

日本キリスト教団牧師

「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」

(マタイによる福音書 7章13—14節)

狭い門から

皆さんは「狭き門」と言うときどんなことを連想しますか。それは受験競争でしょうか。厳しい競争を勝ち抜いて勝利を得るために努力をいとわないことでしょうか。それともあらゆる喜びを拒否して禁欲主義に徹することでしょうか。何を連想しますか。

イエスは「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない」と言われました。ここにはすべての人が向かうべき方向が記されています。それは神の国であり、私の国ではないことは確かです。どんなに頑張ってみても、あるいは自分を否定して禁欲生活に入ったとしても、目指すところが「私の国」である限りは絶望に終わります。

フランスのノーベル文学賞受賞作家アンドレ・ジッドによる『狭き門』という 20 世紀初頭の小説があります。主人公のジェロームは2歳年上のアリサに恋します。アリサも彼のことが大好きで、周りの人たちも祝福し、2人は相思相愛で幸せの絶頂にあります。しかし、神の国にあこがれているアリサは、神の国は2人並んで入れるような広い門ではないと信じ、最愛のジェロームの愛を素直に受け入れることができません。ジェロームは「2人では入れないような神の国なら入りたくない」とアリサに結婚を迫ります。アリサは美しくその愛には少しの陰りもないのですが、最終的には死に至るのです。ジッドはこの小説を通して、当時のカトリックの禁欲主義を批判するのです。個人の禁欲主義や清潔さは狭い門ではなく、それで神の国に入るのではないという主張が込められています。

また「狭き門」は競争社会を勝ち抜いて自分だけの頂点を目指すことでもないようです。

それではイエスの「狭い門から入りなさい」とはどのように理解すればいいのでしょうか。この門は、いわば人類の最終目的とも言える「神の国」への門です。そして、この「広い門」と「狭い門」は皆さん方一人ひとりの前に用意されている門です。それは教師も、学生も、義人も、罪人も、例外なしに備えられているので、私たちはそれを選びながら生きていくのです。

ある受験生の祈り

私は数年前まで新潟にあるキリスト教主義の高等学校の校長をしていました。私学にとって生徒募集は最大の課題であり、校長の責任です。毎年入試の時期になると頭を悩ましていました。「良い生徒が多く来て欲しい」と願い、そのために責任を感じるのです。

敬和学園といいます。その学校では毎朝礼拝をするのですが、受験当日も受験生と一緒に礼拝をします。聖書など見たこともない生徒がほとんどです。讃美歌を歌い、聖書を読んでの礼拝ですが、試験前の彼らにとっては、それどころではありません。中にはノートを出して試験勉強をしている生徒もいます。そこで私は毎年この「狭い門から入りなさい」という話をしていました。

「今日はようこそ敬和学園高等学校に受験のために来てくださいました。心から歓迎します。その人、ノートをしまいなさい。今さら勉強しても仕方ないから、すこし大切な話をするから聞いてください。『狭い門から入りなさい』という話です。君たちは今この高校への入学を希望されています。しかし、この中の約半数の方はその希望はかないません。何とかして入りたいと思ったださっていることだと思います。今あなたの方の前に二つの門が用意されています。それは『狭い門』と『広い門』で人生の最も大切な門と言ってもいいでしょう。

今読んだ聖書には『狭い門から入りなさい』とあります。それは『頑張って、合格しなさい』という話と少し違います。どの人にも用意されている門です。不合格になる人は、とても嫌なことだけれども、それがあなたに用意された狭い門です。そこから逃げずに入るのです。合格した人も気を緩めないでここでしっかりと自分自身と向き合ってください」。こんな話をするのでした。初めは聞いていなかった生徒も真剣に聞くようになります。

ですから、敬和学園高校の生徒たちはどの子も「狭き門」の話をよく知っていました。ある年の秋、私は高知市の教会に講演を頼まれて話に行ったことがあります。そこで話をしていると、前に座って熱心に私の話を聞いている高校生がいました。彼女は泣いていました。どうしたのかなと思っていたのですが、後日、彼女からの手紙を受け取りました。

「私は先生が高知に来て話をされるというのを電車の広告で見て知りました。ぜひと思って行きました。私は、先生の敬和学園を受験した生徒です。でも不合格でした。とても行きたかった学校だったので残念でした。受験の日、先生が『狭い門から入りなさい』という話をしてくださいました。『不合格の人でもそこが狭い門だからそこから入りなさい』と言われ、心に残りました。『そうだ。悲しいけれども逃げないで、ここから行こう』と思ったのです。そして、同じキリスト教主義の学校である高知のS学園に来て勉強しています」ということでした。

この生徒さんはすごいと思いました。こういう人はどこに行っても祝福されると思います。私はこの高校生の手紙を見て改めて大きなことに気づかされました。人には皆に準備されている狭い門があるのです。「どうして私だけが」「絶対に嫌」と思われるようなことに会います。そこは呪いの門のように思えるのです。しかしそこそが神と出会える「狭い門」であるのです。本当のことというのは、悲しみや絶望のような門をくぐっているということです。その年、このような祈りをしました。

受験の前日

私の心はしばらく暗くなった

年々、重い課題を抱えた子どもが多くなる
どうしてだろうか 中学校はこの学校をどう考えているのだろうか
掃きだめか
泥池のように考えているのではなからうか
困った生徒は敬和にやれば良いと思っているのだろうか
神さま どうしてですか
私たちが真面目に取り組めば取り組むほど
課題を持った子が増えるのは
何の問題もない 優秀な子が来て欲しいです
私たちには重荷すぎます
どうすればいいのですか
この子たちの前でたじろいでしまいます

主が言われる
何の問題もない学校がいい学校か
重い課題を必死になって抱えている学校は悪い学校か
お前たちの学校は誰が立てたのか
お前たちの学校は誰のための学校か
お前たちの名誉のためか
お前たちの生活のためか
お前たちの学校の校門の碑に何とかいてあるのか

『明日』
はきだめにえんどう豆咲き
泥池から蓮の花が咲く
人皆に美しき種子あり
明日何が咲くか 安積得也

お前は誰をゴミと呼ぶのか
どこを泥池と言うか
はきだめがだめなのか
泥池のどこがいけないのか
そこにえんどう豆が咲き
そこに蓮の花が咲いているではないか
あの石碑はただの飾り物か
敬和学園を探して来た子どもたち

かけがえのない私の子ども
神の似姿を宿した
尊い私の子どもたちなのだ
彼らが私のところに来るのを妨げてはならない

お前はキリストに何を求めているのだ
お前はいつからそんなに偉くなったのか
お前はいつからキリストを必要としなくなったのか

人が戦火で叫んでいるとき
私だけが苦しなくて済むようにと祈るのか
人が不登校で泣いているのを見て
私の学校にはそのような子がいませんようにと祈るのか
人が倒産して家を失っているのに
私は繁盛して楽ができますようにと祈るのか
人がノイローゼで苦しんでいるとき
私には心の平安をと祈るのか
人が家庭崩壊しているとき
私の家は平和な喜びに満たされますようにと祈るのか

神よ
今、私たちに任せられたこの子たちを
神の選ばれた子として
受け入れさせてください
この子たちと共に
あなたの御国を望みます
私たちの自己満足のための学校になることなく
今の日本に必要な学校にしてください
そのために私たちを用いてください

神の国は私たちの納得のいく
広い門から万歳、主よ、勝利、と言って入っていくところではないようです
あなたの国は
おびえながら
後ずさりしながら
入っていく

狭い門から

わが神、わが神

どうして私たちをお見捨てになったのですか

と泣きながら入っていくところのようです

神よ

私たちをそこへお導きください

2016年6月8日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録